

北海道美幌高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和7年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育 で人材を育てる 学校	1 「生徒一人ひとりを 一層輝かせ成長させる 教育」を行います。	(1)農業教育を通して将来地域で活躍できる 産業人を育成する。 (2)農業の基礎基本、そして新たな技術を 学ばせ、オホーツク地域の農業を担う人材 を育成する。	(1)YUTIME株式会社や北海 道経済連合会と連携し出 前授業や講話などを通し て人材育成を推進した。 (2)オホーツク総合振興 局と連携し、地域農家・ 酪農家の見学や出前授業 を実施した。	(1)(2)単年度の実施 で終わらないように継 続した取組が必要。	4
	2 「世界と日本をつな ぐグローバル教育」 を行います。	(1)世界の農業にも目を向け、国際社会の 中で活躍しう人材育成をする。 (2)海外農業研修、農業を通じた国際交流 の推進を図る。	(1)「J-GAP」の学習を通 して新規取得ができた。 (2)美幌町高校生短期交 換留学を通して留学生を 受け入れ国際交流の推進 を図ることが出来た。	(1)間口減に伴い教員数 が減ることでGAP認証の 維持が困難。 (2)一部生徒のみの活動 になっているので規模 拡大を検討。	3
II 地域社会・産業 に寄与する学校	3 「地域農業の生産を 支える教育」を行います。	(1)新しい農業技術を積極的に取り入れる など即戦力となる農業者育成をする。 (2)関連団体、研究機関と連携し地域に貢 献できるプロジェクト学習を行う。	(1)新顔作物を中心とし た栽培の導入。 (2)地域と密接に連携し たプロジェクト活動が実 施できた。	(1)外部団体との連携や 取組が強化されたので 継続した取組が必要。 (2)活動の継続と発展。	4
	4 「地域の農業関連産 業や6次産業化に寄 与する教育」を行います。	(1)地域農業理解に向けた研修や講演会を 行う。 (2)「地域農業の縮図」としての学校農場 を適切に運営し、地域理解を深めさせる。	(1)みらい農業センター 等の研修や生徒の研究発 表会を実施できた。 (2)地域農業の課題解決 に向けた農場運営を実施 できた。	(1)人数減により負担が 増えている中で、地域 研修への積極的な参加 が難しい。 (2)間口減、教員減によ り圃場規模・品種・加 工品の見直し。	3
III 地球環境を守り 創造する学校	5 「地球環境を守り、 創造する教育」を行 います。	(1)環境保全型農業を推進し、持続可能な 農業体系を具現化する。 (2)地域の未利用資源、副産物等の有効利 用、有害生物に関する研究を深め、安定的 な農業生産体系確立を目指す。	(1)堆肥の有効活用や循 環型農業の実践ができ た。 (2)副産物、有害生物活 用につながるプロジェ クト活動ができた。	(1)(2)環境を意識した 農場運営、プロジェ クト学習の継続。	3
	6 「地域資源を活用 し、地域振興の拠点 となる教育」を行 います。	(1)豊富なオホーツク資源の栽培を通して 地域農業の理解を深める。 (2)地域資源の活用方法について食品加工 等を通して学び、将来のオホーツク産業を 担う人材を育てる。	(1)(2)地域農産物を意識 した農産物生産や地域資 源活用を考えた加工品製 造ができた。	(1)(2)取組の継続と地 域資源についての研修 を深める。	4
IV 地域交流の拠点 となる学校	7 「Society5.0の時代 に応じた教育」を行 います。	(1)学校農場を活用したスマート農業を推 進する。 (2)ICTを用いて質の高い農業教育を行う。	(1)(2)自動装航に関する 出前授業やアグリノットを 活用した圃場管理について 学習できた。	(1)(2)ICTを活用した施 設や備品が不足してい るので積極的に外部団 体と連携し実物を用 いた学習を継続する。	4
V 地域防災を推進 する学校	8 「地域防災を推進 する教育」を行 います。	(1)防災教育の推進を図る。 (2)地域防災における学校の役割を認識 し、町の災害対策と併せて取り組みを検討 する。	(1)(2)地震停電等にお ける農場の在り方を考 えることができ、準備 を整えることが出来 た。組織的に動くこ とが出来た。老木の 伐倒により、整備が 図られた。	(1)(2)地域における役 割や連携を今後考 えていく必要がある。	3